

キャンヘルプタイランド

ネットワーク通信

2010年4月24日発行 第49号

バンコク便り

タイ・バンコク在住の西川会長から

こんなことになるとは思いませんでした。

報道などでご存知のとおり、バンコクではしばらく続いていた反政府デモがついに爆弾騒ぎにまで発展してしまいました。

今回のデモは、今までとは違い街の中心部で行なわれバンコク随一の商業地が占拠されたこと、また日本人に犠牲者が出たことなどから、在住日本人の緊張感も今までのデモより高かったように思います。

しかし、その後タイ正月（水掛け祭り）の大型連休に入って、街の中心部に入出入りする人が減り、デモの影響が限定的になったことや、

デモ隊の占拠地のすぐそばにあるシーロム通りやカオサン通り（派手な水掛けが公認されている地区）でも例年通りの激しい水掛けが行なわれたことから、何となくこのまま収束するのではという淡い期待を私自身も感じていました。

連休明けには、オフィスビルが林立する経済の中心地シーロム通りにデモ隊が突入すると噂が流れましたが、それでも、ほとんどの企業が通常通りの営業を開始し、シーロム通りの入口に大勢の兵士が動員され、シーロム突入を阻止するためのバリケードが置かれるようになって、そのすぐそばを通勤のサラリーマンがいつものように行き交い、屋台が営業を続けていましたし、ひとつ駅を離ればいつもと全く変わらない毎日が続いていましたので、今回のバンコク便りでは、マスコミには報道されないデモでも変わらぬ日常をお伝えしようと思っていたほどです。

実は今回（4月22日）の爆発は私が毎日歩いている高架電車と地下鉄駅とを結ぶ連絡道で起きました。交通の要所でもあるので、事件当時大勢の人がそこにいたであろうことは容易に想像できます。爆発は8時10分ごろ。私が帰宅しようとパソコンを閉じる前に出した最後のメールの発信が7時44分でした。オフィスから現場まで約20分ですので、そのままオフィスを出ていれば、ちょうど爆発が起きた時に現場を歩いていて、あの混乱に巻き込まれていたでしょう。たまたま、オフィスを出る直前に同僚に呼び止められて、10分ほど話し込んでしまったために、私は運良く難を逃れたのですが。今日（4月23日）現在、高架電車や地下鉄は爆発事件があった地区を中心に一部不通となっています。一日も早く事態が好転することを願ってやみません。



有刺鉄線で作ったバリケード。ちょうど高架鉄道駅の下。背後に地下鉄の駅、その後ろにデモ隊の占拠地。バリケードはデモ隊のシーロム侵入を防ぐためと思われる。（4月20日撮影）

西川弘達@バンコク



治安維持のため配備された兵士。左は高架鉄道の駅。兵士に差し入れをする市民を何度も目にしました。兵士といっしょに記念写真を撮る人もいて、まだなごやかな感じでした。この駅下で爆弾が爆発
(4月20日撮影)



奥がデモ隊。本来奥に延びる高架に沿って道（ラチャダムリ通り）が続いていますが、封鎖して占拠しています。奥右がルンピニー公園。左がチュロンコン病院。撮影位置は地下鉄駅の入口で、シーロム通りの起点。左右に走るのがラマ4世通り。ここでデモ隊とシーロムを守る軍隊とのにらみ合いが数日続きましたが、間を走るラマ4世通りには車の往来があります。
(4月20日撮影)



地下鉄シーロム駅は、一方の出口がデモ隊の占拠地になっていて封鎖。もう一方はビジネス街や高架鉄道の駅に向かう出口で、朝夕はいつものようにサラリーマン・OLでにぎわっていました。
(4月20日撮影)



爆発事件前日のシーロム通り。写真奥が高架鉄道の駅。撮影地点は地下鉄駅の入口。背後にデモ隊の占拠地点。電車の高架下にある歩道橋は地下鉄と高架電車の連絡通路ですが、数日前から通行止めになり兵士の待機場所に。左下にはデモに抗議するグループが集まり始めています。この駅から地下鉄に乗る際、ここを通らなければ駅に入れない状況で勤め帰りの人も多数。22日は爆弾の一つがこの辺りを直撃。左にある店のガラスが大破。(4月21日撮影)

活動報告 1

～2009 年度総会とレイ先生送別会～

2010年3月28日、キャンヘルプタイランド事務所にて「2009年度総会」が開催されました。出席者は約13名と少人数でしたが、多くの委任状により会則の定める定数を超えることができ無事に会を成立させることができ、総会議案書にあった各決議事項も無事に承認されました。委任状にご協力いただいた会員の皆様、ありがとうございました。2010年度も運営委員で協力し合いキャンヘルプタイランドの運営に努力いたしますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



2009年度の活動報告に関しましては、以前にお送りした会報と議案書をご覧になっていただければよいと思いますが、2010年度の活動計画に関しましては、様々な原因による寄付金の減少とタイ東北部の環境改善により活動規模の縮小を余儀なくされております。特に、タイ東北部の教育環境も徐々に改善され、毎年行っていた建設プログラムでの校舎や図書館、集会場の建設の必要性も低下してまいりました。本年度につきましては、タイ東北地方での大規模な建設プログラムと、それに付随したワークキャンプは行わない予定です。しかし、タイ北部での山岳部の少数民族の子ども達への支援に関しましては、未だ支援の必要性が感じられますので、2010年度3月に学生寮「カサロンの家」での建設支援は行いました。奨学金プログラムに関しましては、タイ政府の「義務教育無償化」政策が実行された今でも、制服代や給食代、バス代など授業料以外にかかる経費の増加があるため本年度も継続して支援を行います。また、大口寄付により本年度から実施予定の「すみれ基金」奨学金についての話し合いも行われました。こちらに関しましては詳細が決定次第、次回以降のネットワーク通信でご報告いたします。



総会後には、タイ料理レストランに場所をかえ、キャンヘルプタイランド創設者のハリー・レイ教授のアメリカ帰国送別会も行われました。会場には会設立当初のメンバーや横浜など遠方からの参加者も集まり、さながら、キャンヘルプタイランド同窓会のような感じでした。

総会後には、タイ料理レストランに場所をかえ、キャンヘルプタイランド創設者のハリー・レイ教授のアメリカ帰国送別会も行われました。会場には会設立当初のメンバーや横浜など遠方からの参加者も集まり、さながら、キャンヘルプタイランド同窓会のような感じでした。

2009 年度総会報告

報告者：大矢 まゆ美

平成22年3月28日(日) 13時より日商ビル2階会議室にて、キャンヘルプタイランド2009年度総会が開催され、13名が出席しました。また、30名の方から委任状をいただき、会則による総会の定足数(平

成21年12月31日現在の正会員78名の10分の1以上)を満たして総会が成立しました。そして、各プログラム担当者が2009年度の活動・会計報告と2010年度の活動計画・予算報告をし、質疑応答のあと、承認決議が行われ、全ての議案が可決されました。

今回、総会に出席して、初めて参加した1995年から今までの15年間を思い出していました。初めてワークキャンプに参加した頃の東北地方は、校舎不足で青空教室なんてこともありましたが、壁のない教室で大雨の時には雨が降りこんでくるような状況でした。今では、政府の支援が増え、校舎建設の需要は殆どなくなり、2009年度は多目的ホールの建設をしました。この様に支援の要請がどんどん減り、タイ人のタイ人による支援で、子供を取り巻く環境が改善されていくことを願ってやみません。

また、山岳部少数民族プログラムでは、海を見たことがない子供たちと一緒にホアヒンへ海水浴に行きました。私は、2004年にカサロンの家に隣接する希望の家に2週間ほど滞在させていただいたことがあるのですが、子供たちは親と離れて寂しくても我慢して、年下の子供の面倒をみたり、家畜の世話や寮の掃除、学校の勉強に忙しく、時間もお金もない子供たちがそんなに遠くの海へ行くななんて、私たち日本人にして見れば、エーゲ海で海水浴するぐらいのビッグイベントで嬉しくて嬉しくてたまらなかったことと思います。建物建設や奨学金の支援といった物の他に、こういった心を豊かにする、素敵な思い出を作る機会を作ることができるようになったこととても嬉しく思います。

また、図書支援プログラムでは、可児市絵本コンテストに3作品を応募し、良い評価をいただいています。年々絵がうまくなっており、図書支援プログラムの結果が出てきています。

CANは2010年に20周年を迎えます。この20年間でタイの経済は大いに発展し、子供たちへの支援の方法も大きく変化しました。今年は、20年の変遷をまとめた冊子の発行や記念イベントを計画していますので楽しみにしててください。

レイ先生送別会報告

報告者：内田 由布子（会員）

3月28日午後5時から鶴舞のサワティーすみよし店でハリイ・レイ先生の送別会が行われました。出席者は総勢40名弱。キャンヘルプタイランドが縁で結婚され、お子さんを連れて出席され方も数名いらっしゃいました。会は1. 西川会長の挨拶 2. 新井副会長の乾杯の挨拶 3. 出席者から一言ずつの挨拶とレイ先生への言葉 4. レイ先生からの挨拶 という式次第で進行しました。レイ先生からのお話からいくつか紹介します。

- * 日本に興味を持ったのはネブラスカ大学で近代日本史を研究していたから。1年の日本滞在が26年になり自分でもびっくりしています。
- * キャンヘルプタイランドのはじまりは私が筑波大学にいたころのオラチャートというタイ人の教え子に、タイの東北地方に招待されたことです。（新婚旅行で行かれたそうで、奥様はびっくり。）そのころのタイの子供たちの学校の進学率は13%でした。（1993、1994年ごろ）子供たちはお腹が大きくあばら骨が浮き出ている、何とかしてあげたいと思いました。新井副会長（日本人）と同僚のカナダ人とで私費を出し合って少人数の援助を始めたのがきっかけです。私はアメリカ人で死ぬまでに何か社会貢献をしたいと思っていたのです。
- * タイの思い出はいろいろありますが特にビルディング・プログラムでスリン、ムクダハン、プリラムなどの県が印象にあります。それから永井さんのご助力をいただいて郵政省から継続したボランティア貯金の寄付をいただいたことに感謝しています。
- * ビルディング・プログラムでは私はアイディアはありましたが、細かなことは新井副会長、西川会長にいろいろと助けてもらい感謝しています。

- * 私は大した財産を築けませんでした。キャンヘルプタイランドでタイの人々と日本人との交友は私のかけがえのない財産となりました。
- * 米国に帰国してからは、日本滞在が長くなったので今の私は米国事情に疎いです。“What is American?”という本を執筆したいと思っています。ジョージアの大学で非常勤講師として教える目処がついています。懐かしいタイ料理を頂きながら（個人的にはワタリガニのカレーは初めてでしたが、美味しさにビックリ！）レイ先生をはじめ、久しぶりに旧交を温めることが出来てとても楽しかったです。レイ先生はジョージア州の娘さん家族のお近くに住まれるそうですが、年に1度は2-3ヶ月の滞在期間を目処に日本に帰国される予定のことです。また近い将来にお会いできることを楽しみにしています。そして先生のご健康と今後益々のご活躍を心よりお祈りいたしております。

活動報告2

～2009年3月「カサロンの家」ワークキャンプ～

3月12日（金）から3月20日（土）までの9日間、チェンマイ県の「カサロンの家」で寮の補修改築工事を行うワークキャンプが開催されました。日本からは学生ばかり5名が参加し、バンコクからのタイ人大学生3名とカサロンの家の子どもたちと希望の家の子どもたちも加わり、一緒に楽しく建設作業を行いました。

「カサロンの家」には現在25名の子どもたちが共同生活をしており、既存の寮では狭くなってしまったため、寮の拡張工事と、子どもたちの安全面を考え寮の中にトイレを作る工事を行いました。また、3年前に建てた寮棟の壁を塗りなおす作業も同時に行いました。トイレ工事では直径1.2メートル、深さ2.5メートルの大きな穴を3ヶ所も掘り、その中にコンクリートの管を設置する作業を行い、クワの扱いに慣れていない日本の学生は悪戦苦闘しながら作業をしていました。

タイ滞在中には工事完了までに至りませんでした。きっと新学期の始まるころには、子どもたちは新しく快適な寮で生活できるようになっていることでしょう。

○ワークキャンプ参加者手記○

海外に行くこと自体が初めてで、出発当日まで不安でいっぱいでした。全く未知の環境で、言葉の通じない子ども達とどのように接すれば良いのだろうか。全く相手してもらえなかったらどうしよう。そんなことを考えてしまって、緊張と不安で気分が悪くなってしまいました。

しかし希望の家、カサロンの家に到着し、タイの温暖な気候の下で子ども達とともに作業を進め、遊び回っていると、そんな緊張や不安はあっという間に消え去ってしまいました。子ども達は私の下手くそなタイ語を真剣

に聞き取ろうとしてくれ、日本語を覚えて話をしようと努力してくれて、私に歩み寄ってきてくれました。その気持ちに応えるために、私も子ども達と一緒に笑い合う時間を心の底から楽しみました。ポーズを取ってみんなに披露する遊びや、日本語とタイ語で「お腹いっぱい」と言い合って笑った夜空の下での焼き肉、何気ない会話の数々。どれも日本には経験できないことでした。



最後まで一緒に笑おう。笑って、笑わせてやろう、と思っていましたが、別れの前に歌を披露している途中、思いがけず涙が出てきました。子ども達に、「笑え」と言われてしまいました。楽しくて仕方がなかった毎日が頭の中を巡り、どうにも止まりませんでした。それでも無理矢理に笑顔を作って、お別れをしました。子どもの一人が「悲しい」と日本語で言って抱きついてきてくれたことが胸にきました。

滞在中、教員になることを目指している私にとって、タッサニーさんの話や子ども達に対する愛情溢れる態度はとても勉強になりました。どの子に対しても分け隔てなく、しかしそれぞれの子どものことを考えている姿勢は、見ているだけでもためになりました。

生活空間にお邪魔させていただくということは、子ども達にとっても負担になったと思います。タッサニーさんやスタッフの皆様、子ども達に感謝しつつ、そうさせていただいたからこそ学ぶことができた多くのことをこれからも考え、私の人生の糧にしていきたいと思います。

コーディネーターの坂さん、キャンヘルプタイランドの皆様の御尽力にも感謝しています。本当に良い経験をさせていただいて、ありがとうございました。

三重大学人文学部文化学科

山本 直志

ワークキャンプ会計報告

○国内会計（単位：円）

収入の部

項目	金額	備考
参加費	210,000	42,000 円×5 名（参加者）
合計	210,000	

支出の部

項目	金額	備考
キャンプ生活費等	137,400	基金へ
航空券	72,600	コーディネーター旅費
合計	210,000	

○タイ会計（単位：バーツ）

収入の部

項目	金額	備考
参加費	49,464	137,400 円をバーツ換算
タイ人学生交通費等	8,210	FREE より
合計	57,674	

支出の部

項目	金額	備考
生活費	35,000	500 バーツ×7 日×10 名
ガソリン代等	2,000	
△通訳費等	8,000	1,000 バーツ×8 日
建設作業用道具	2,720	
会食	2,361	最終日レストラン
その他食費	1,250	フルーツ等
航空券	1,955	△（チェンマイーバンコク）
バス代	2,938	タイ人 3 人往復と 1 人片道
残金	725	キャンヘルプタイランド基金へ繰入
残金	725	FREE 基金へ繰入
合計	57,674	

「カサロンの家」の現状

タイ・ラフ財団、FREE、キャンヘルプタイランドの共同事業として2005年から運営が始まったタイ北部山岳少数民族の子ども達のための学生寮「カサロンの家」は、今年で6年目を迎えることができました。2005年3月に1棟目の寮棟を建設し、同年7月には家畜小屋と井戸を建設、2006年7月には2つ目の寮棟を建設し、2008年3月には調理場兼食堂の建設を行いました。また、2009年3月にはカサロンの家の子もたちと一緒にタイ南部のホアヒンへ海水浴旅行にも同行しました。そして今回、2010年3月には寮の改装工事を行い、徐々にですが寮の生活環境が充実してきました。運営開始当初は9名ほどの子どもたちが共同生活をしていましたが、現在はその数も大幅に増え、小学生から中学生まで男女合わせて25名の子どもたちが元気に暮らしています。



「カサロンの家」の課題と解決策

寮棟などの施設が徐々に充実してきた「カサロンの家」ですが、寮生活する子どもたちの数が大幅に増加したことにより数々の問題が発生してきました。宿泊部屋やトイレシャワー室の不足といった簡単に解決可能な問題は3月の建設プログラムでおおよそ改善できたと思いますが、中でも大きくやっかいな問題は寮の電力不足と運営経費の不足です。

カサロンの家は幹線道路から1キロほど奥まったところにあり、そこには細い電線しか張られていません。近年、カサロンの家のすぐ隣に30軒ほどのラフ族の村ができ、そちらと細い電線の電力を分け合っている状態です。昼間は使用する電気が少ないので問題ないのですが、夜間には蛍光灯すら点かない状態です。また、電気モーターに頼っている井戸のポンプにも不安定な電気が流れるため、たびたびの故障が起きています。根本的な解決策は、電力会社に依頼し新しい電線を幹線道路から「カサロンの家」まで引くことですが、それには580,000バーツ（約180万円）という莫大なお金が必要となります。

キャンヘルプタイランドとしては、「カサロンの家」の電力不足の解決にこれだけの大きなお金を投入することに躊躇しています。不足を補う前に節約が大切だと考えます。根本的な問題解決にはなりません、比較的安価な小型発電機の支援で電力不足の解消にならないか現在調査中です。小型なものなら移動もでき、夜間に子どもたちが勉強する時でも蛍光灯の点灯は可能です。また、井戸の横に貯水タンクをつくり、きれいな水を昼間の電力が安定しポンプが正常に動く時間帯に貯めておくことも考えています。そして、雨水用の貯水タンクも作り、その水を洗濯やトイレなどで使い、乾季の水不足を解消できないかとも考えています。発電機は10万円程度で購入でき、貯水タンクは1基2~3万円ほどで建設できるそうです。



そして、2番目の運営経費の問題ですが、現在「カサロンの家」の収入源は、「寮生活する子どもの親からの寮費（1人年間3,500バーツ）」、「FREEからの寮運営スタッフ経費の支援」、「キャンヘルプタイランドからの子どもたちへの奨学金支援」、「その他寄付」となっています。しかし、寮生の親から寮費の支払いが滞ることがあり、また、不安定な寄付金にも頼っているため、寮生の増加した現在でも安定した黒字運営にはなっていません。しかし、キャンヘルプタイランドとしては寮の運営経費の支援は考えていません。なぜなら、「カサロンの家」には経済的に自立してほしいからです。補助金に頼る施設は必ず衰退します。「カサロンの家」にはこれからも永遠に山岳部に住む少数民族の子どもたちのために存続してほしいと思います。寮の運営の安定化に向けて良いアイデアなどありましたら、是非会員の皆様からも提案してください。よろしくお願いいたします。

運営委員会

(2010年2月～2010年4月)

活動	月日	場所	内容
運営委員会	2月28日	事務所	パンフレット研修、春のキャンプについて
運営委員会	3月27日	事務所	総会準備
総会	3月28日	事務所	2009年度総会
運営委員会	4月24日	事務所	6月の奨学金授与式について

新運営委員の紹介

～石井 満さんの自己紹介～

はじめまして、石井 満（通称「クン・ポー」＝お父さん）と申します。今年1月「後期高齢者」になりました。現役の「零細企業」の親父です。

私の初めての海外駐在地が「バンコク」で、昭和36年(仏暦2504年)でした。当時は「仕事中心」で、タイに対する特別な思い入れ等全くありませんでした。その後独立し、タイ国との取引を始めようと、30年程前から度々訪タイしました。タイ国と言うよりもタイ人に感心を持ったのはこの頃からです。

その頃から何かお役に立つ事が出来ないかと、東京、大阪のボランティア団体に所属しています。残念ながら長年在籍していても「寄付」行為のみです。

なんとか後10年は寿命を授かりたいものです。そして身近な場所「名古屋」で遅まきながら出来る範囲の活動をしたいと考えていました。

そんな折にこの会を知りまして、即実行と「運営委員」のお仲間に入れていただきました。

「耳学問」でタイ語の日常会話(日本語訛り)は何とかなりますが、肝心の「読み書き」が出来ず、現在独学で勉強中です。自身の勉強を兼ねて「翻訳」業務の一端でもと考えています。

この業務を通じて皆様とお話の輪が広がれば、嬉しく思います。

タイの古い話や、専門分野を除いた「雑学」は結構勉強しています。(お役に立てれば幸甚)こんな年寄り爺さんでも「出来る事」がある事を立証すべく頑張りたいと思います。この会に関係する皆様のご支援よろしくお願い申し上げます。

運営委員募集

一緒にキャンヘルプタイランドの運営に参加してみませんか？

通常は毎月第4土曜日に事務所に集まり、会の運営について話し合っています。見学でも結構ですので是非事務所へ遊びに来てください。

次回の運営委員会は **5月22日(土) 13:00～** (事務所にて) です。

編集後記

▼ 3月28日にキャンヘルプタイランド創設者ハリー・レイ教授の送別会が行われました。急に企画された送別会だったので皆様へのご案内がうまくいかず参加できなかった方もたくさんいらっしゃったと思います。しかし、様々なネットワークを使い当日は30名以上の懐かしい人たちが集いました。レイ先生をはじめもう10年以上もお会いしていない人たちとも再会でき、これだけの人たちを惹きつけるレイ先生のお人柄に本当に感謝、感謝でした。

<キャンヘルプタイランドネットワーク通信 Vol.49>

発行 キャンヘルプタイランド
 発行人 西川 弘達
 編集人 坂 茂樹
 発行日 2010年4月24日
 住所 〒450-0003
 名古屋市市中村区名駅南2-11-43
 NPOステーション内
 Tel & fax 052-566-5131
 (OPEN: 毎週火、木・土曜の13～16時頃)
 E-mail: canhelp@npo-jp.net
 ホームページ: http://www.canhelp.npo-jp.net